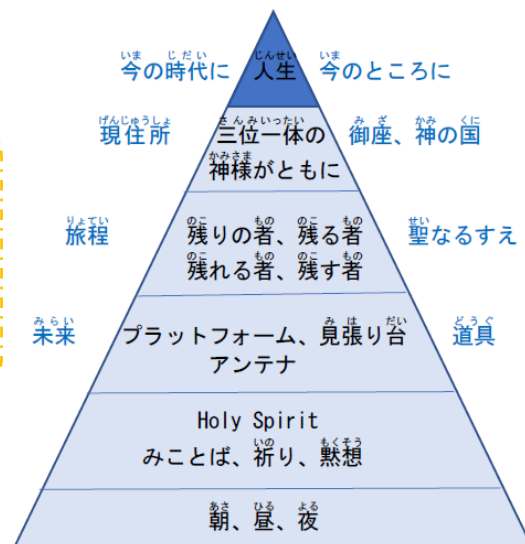


三位一体の神様がともにおられ、私たちを通して契約の旅程をともに歩んでくださり、未来を生かす道具として用いてくださっているということです。私自身がなにかができるのではなく、神様がすべてを備えてくださっていること、それが9月の学院福音化のメッセージの核心の内容です。



2課 弟子たちにあたえられた特別な警告（マタイ 17:1-9）

フォーラムの内容：キリスト 職の使命—十字架

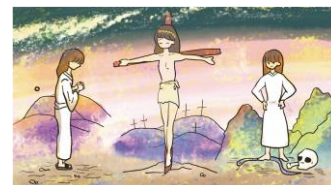
まず、マタイ 16:16 でペテロが「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と告白をしたあと、イエスがおっしゃったことを見てみましょう。

マタイ 16:20

そのとき、イエスは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。

「キリスト」とは、どういう意味でしょうか。

「油をそそがれた者」という意味があって「王、預言者、祭司」の役割を意味しています。



それでは、イエス様がキリストという職分をなされるときは、いつでしょうか。それは、十字架にかけられ、死んで復活される時です。

マタイ 16:21 を見ると

その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。

ひとことで言うと、イエス様が弟子たちに「ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない」と言われたのは、まだイエス様の時、すなわち、「十字架の死と復活の時」が来ていなかったからです。

もう少し、具体的に説明をすると、それまでイエス様は多くの奇跡をおこなわれました。5千人、4千人を食べさせ、湖の上を歩いたり、あらゆる病気やわずらいを治したりされました。そのように、イエス様は、人々がそれまで見たこともなかった奇跡をおこなわれたのです。そのようなイエス様をキリストだと、すなわち、旧約で約束されたメシヤだと言って、そのうわさが広まるとどうなるでしょうか。

イスラエルの民は、まちがった民族的なメシヤ思想を持っていました。まちがった民族的なメシヤ思想というのは、まるでモーセやダビデ、エリヤのように、軍事的、政治的に権力を持って属国となっているイスラエルを解放してくださる王としてのメシヤを待っていたということです。

イエス様がそのようなメシヤとして来られたと思う人々は、イエス様を前にして、ローマの属国からイスラエルを解放して下さり、そして、ローマの政権に反逆を起こすメシヤだと思うでしょう。

それで、聖書の多くのところで、ときにはイエス様が群衆を避けてどこかに行かれたという内容が記録されています。その代表的なところが、ヨハネ 6:15 です。イエス様が5つのパンと2匹の魚で、5000人を食べさせられたあとのことです。

ヨハネ 6:15

そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こうとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。

イスラエルの民だけが、イエス様のキリストとしての使命を分らなかったのではなく、弟子たちも同じでした。弟子たちもイエス様のメシヤ、キリストとしての使命を、正確には分らなかったのです。イエスがキリストと告白したペテロも、イエス様の十字架の死と復活は、まだ理解していなかったのです。

それでは、マタイ 17:1-4 を見ましょう。

マタイ 17:1-4

1 それから六日たって、イエスは、ペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に導いて行かれた。

2 そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。

3 しかも、モーセとエリヤが現われてイエスと話し合っているではないか。

4 すると、ペテロが口出ししてイエスに言った。「先生。私たちがここにいることは、素晴らしいことです。もし、よろしければ、私が、ここに三つの幕屋を造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」

ここで、イエス様がエリヤとモーセと話し合いをしたと書いてあります。その話がどんな話だったのか、また、ペテロがなぜ、三つの幕屋を造って、ここに住むのが良いと言ったのか。具体的な内容が、ルカ 9:30-33 にあります。

ルカ 9:30-33

30 しかも、ふたりの人がイエスと話し合っているのではない。それはモーセとエリヤであって、

31 栄光のうちに現われて、イエスがエルサレムで遂げようとしておられるご最期についていっしょに話していたのである。

つまり、イエス様の最期の十字架の死と復活についての話をしていたということです。

32 ペテロと仲間たちは、眠くてたまらなかったが、はっきり目がさめると、イエスの栄光と、イエスといっしょに立っているふたりの人を見た。

33 それから、ふたりがイエスと別れようとしたとき、ペテロがイエスに言った。「先生。ここにいることは、すばらしいことです。私たちが三つの幕屋を造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」ペテロは何を言うべきかを知らなかったのである。

ペテロは、自分もなぜこのように言ったのかわかっていなかったということです。

この事件は、変貌山の事件と言いますが、この事件以来、イエス様は弟子たちにもう一度、警告をされます。それがマタイ 17:9 です。

マタイ 17:9

彼らが山を降りるとき、イエスは彼らに、「人の子が死人の中からよみがえるときまでは、いま見た幻をだれにも話してはならない」と命じられた。

マタイ 16:20 と同じです。「人々にキリストであること」「このような幻を見たこと」は言うてはならないと警告されたのです。

モーセやエリヤのようなメシヤを期待していた人々が、イエス様がモーセとエリヤといっしょにおられたというわさが広まれば、また、人々はイエス様をむりやりに連れて行って、自分たちを解放してくれる王としようとするのが当然だったので、イエス様の時、つまり、キリストの職をまっとうされる時までは、だれにも話をしてはならないと弟子たちに言われたのです。

当時、イエス様についてきた、多くの群衆、弟子たちも、イエス様の話がよく分からなかったのです。



これらのことから、イエス様が十字架にかけられ、死んで、三日目に復活されることによって、私たちに与えられる救いの神様の愛、それを私たちが分かって信じていること、それがどれほど大きな感謝であるかを黙想しましょう。



そのすべてが神様の恵みです。ですから、先に救われた私たちは、残りの人生が、ただイエス様がキリストであること、十字架を通してすべての問題を解決して下さったこと、それゆえ、私たちがキリストの三職（王、祭司、預言者）の大使として用いられることを祈らなければなりません。



第2課では、キリストの職の使命、それは、十字架だということを分かち合って、黙想しましょう。

* このメッセージは、参考にして、2課のテキストに出て来る聖書箇所を読んで黙想してください。 *